

朝露わけて

里の子が、

近き外山ごやまの

木隠きかくれに、

さゝ栗拾ふ

聲すなり、

茸きのこもありと

叫まがびつゝ。

* * * * *

浦和の磯に

打むれて、

あさり蛤

拾ふ子は、

日の暮れ行くも

しら波の、

歸るを忘れ

遊ぶなり。

* * * * *

夕日照りそう

岡のへに、

落葉かく子の

一むれは、

おのが家路に

吹く風の、

ちりくゝにこそ

急ぐなれ。

雪

全

人

まだ來ぬ春を

忍べどや、

しのぶが岡の

雪のあさ、

咲く事しらぬ

常盤木も、

匂はぬ枝なき

ひとつの花。

春 山

全 人

はのくゝと明け行く今朝の中空に

姿ふりせぬ雪の不二の嶺



説 林

兒童の道徳的訓練 (一)

兒童の義務の意識は其初め兩親の權勢の下に生活する經驗より生ずるものにて其惡事をなすを嫌ふは罰をおそるゝ利己的感情より來るものなり生後僅かに五六ヶ